

令和6年度 中野区立桃園第二小学校 学校経営計画 (報告書)

| | | | |
|-----------------------|---|-------------------|---|
| 学校教育目標 | 中野区の教育理念「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」を踏まえ、人権尊重の精神をもち、よりよい未来社会の創り手となるための必要な知・徳・体の力をバランスよく育む。 ○考える子 ○心豊かな子 ○元気な子 | | |
| 目指す子ども (幼児・児童・生徒)像 | ○考える子……個別最適な学びと協働的な学びの中で、基礎的、基本的な内容を基盤に、興味・関心を高めて思考力・表現力を身に付けて、主体的・対話的に学ぶ子 ○心豊かな子……「中野区子どもの権利に関する条例」を踏まえて自他の生命を尊重するとともに、豊かな感性と優しい心で多様な他者とかかわり、互いのよさを認め合い高め合える子 ○元気な子……運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上に努めるとともに困難を柔軟に受け止めて適応し、乗り越え、回復しようとする子 | 目指す学校 (教師像を含む) | ○目指す学校像:「子どものために、子どもとともに 保護者・地域と歩む桃二小」 ・ 夢や希望をもって、自ら考えチャレンジできる学校 ・ 自分も相手も大事にする学校 ・ 地域とともに歩み、地域を愛する学校 ○目指す教師像:「子どものために自身も学び続ける教師」 ・ 児童一人ひとりを大切に、情熱と熱意をもつ ・危機管理意識を高くし、安心安全に努める ・ 教員同士学び合い、指導の工夫・改善に取り組む ・家庭、地域と積極的にコミュニケーションを図る |
| 教育目標を達成するための基本方針 | 「子どものために 子どもとともに」をモットーとして、全教職員が一丸となって教育を実践し、保護者・地域とともに歩むことを学校運営の基本方針とする。 ・ 子どもたちが、一人ひとりの個性が大事にされ、誰一人取り残されることなく成長できるよう、「中野区子どもの権利に関する条例」の理念のもと、子どもの「生命・発達」「意見表明」「個性」を守るとともに、子どもたちにとっての最善を追求する。 ・ これからの時代を生きる子どもたちが、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」といった知・徳・体のバランスとれた「生きる力」を身に付け、自他の生命を尊重し、心身ともに健康に生活することを通して、自らの可能性に気づき、伸ばすことができるようにする。 ・ 子どもたちが、地域の中で成長できるよう、保護者・地域・同窓会の皆様と目指す子ども像を共有し、地域に開かれた教育活動を推進していく。 | | |

今年度の重点

| A 重点目標 | B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか) | C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする) |
|---|---|---|
| 1 【知(確かな学力)】 これからの時代に生きる子どもに必要な確かな学力を育む。 | 子どもが学習の見通しをもち、自ら学ぶ意欲を高め、基礎的基本的な知識及び技能を習得し、それを活用していく力を身に付ける。 子どもが自らの課題を見付け、主体的・対話的な学びの中で、自らの課題を解決し、自己の学びを深めていく力を身に付ける。 | ・ICTの効果的な活用及びUDの手法を取り入れた授業改善と同時に、AIDリルを活用した朝学習や家庭学習を継続実践し、子どもの学習への達成感を味わわせ、自ら学ぶ意欲を高める。 ・国語科「読むこと」を主とした個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る授業実践を行い、自らの課題を探究していく力や他者との対話の中で学びを深めていく力を育てていく。 |
| 2 【徳(豊かな人間性)】 自他の生命を尊重するとともに豊かな人間性・社会性を育む。 | 子どもが自他の生命を尊重し、相手意識を高め、相手への思いやりの心を育み、よりよい行動を判断し、とることができる。 多様な教育活動に基づく道徳教育・人権教育を推進し、子どもが自分のよさを気づき、自己肯定感・自己有用感を高めることができる。 | ・「あいさつ・返事・後始末」を重点に礼儀正しい行動を育てる生活指導の継続的実践とともに いじめ防止に向け、隔月のアンケート、年3回のいじめ授業、発見即日組織対応等で、未然防止、早期発見、早期解決、再発防止を徹底する。 ・校内道徳研修を行い、「生命尊重」「個性伸長」を重点に子どもたちの自己肯定感を育む道徳授業の改善を図り、2月の道徳授業公開講座で、全学級授業公開で、その取組を地域・家庭に発信していく。 |
| 3 【体(健康・体力)】 自分らしく困難を乗り越えていくための心と体づくりを図る。 | 体育科授業・体育的活動を充実させ、子どもが運動の楽しさを味わい、すすんで運動に親しむ態度・習慣を身に付けることができる。 子どもが、多様なストレスや困難を乗り越えられるためのレジリエンス(回復力、逆境力等)を高めることができる。 | ・児童の主体性を生かした体育授業の工夫や年間を通じた体力向上の取組(朝のプレイタイム、ももにんぴっく、なわとび、持久走等)を行い、運動に対する意欲を高め、1日60分以上の運動を目指す。 ・子どものレジリエンスを高める手だてについて校内研修する場を設け、子どもへの励まし・賞賛の言葉がけに日々努めたり、学級活動や保健指導等での授業実践に取り組んだりしながら、子どもの物事に対して前向きになれるな気持ち「折れない・負けない心」を育てていく。 |
| 4 【学校における働き方改革】 教員の心身の健康を保つために、時間外労働時間の適正化を図る。 | ・教師自身の仕事のタイムマネジメント力を向上させる。 ・組織的な業務改善(学校行事等の精選、教科担任制、時間講師活用、担任サポート人材、ICT活用による校務のスリム化など)を図る。 | ・教員各自が毎月の在校時間集計をチェックしながらタイムマネジメント力をつけたり、時間講師や各種のサポート人材を活用したりしながら、教職員が働きがいのある職場を実感でき、時間外労働時間を45時間以内を目指す。 |
| 5 【保幼小中連携】 保幼小中の連携を強化し、15年間の学びの連続性を意識した教育活動を推進する。 | ・中野中学校区のカリキュラム連携の取組の重点テーマである「体力向上と健康教育」を推進し、子どもの心と体の育成を図る。 ・中学校のオープンキャンパスや園児との交流等の異校種間の交流を計画的に進め、キャリア教育、豊かな心の育成を図る。 | ・12月の小中連携協議会では、「子どもの主体性を大事に、子ども自身が自分の心と体を大切にしていこう」をテーマに全学級における授業公開とテーマに沿った講演会・情報交換会を行う。 ・中学校オープンキャンパス、保育施設・幼稚園の小学校見学・交流会等を通して、学びの連続性や円滑な接続を図るとともに異校種交流で、相手意識・目的意識を明確にさせ、相手への思いやりを育てていく。 |
| 6 【安心安全な学校づくり】 子どもたち一人ひとりが自己実現できるように安心して学べる環境を充実させる。 | 関係諸機関と連携しながら校内の教育相談体制や特別支援教育を充実させ、不登校傾向の児童や特別支援の配慮を要する児童について、一人ひとりのニーズに合わせた教育的支援を行うことができるようにする。 | ・不登校傾向の子や発達や学力に課題のある子について、一人ひとりに応じた支援について校内の特別支援教室教員、SC、心の教室相談員、さらには巡回心理士・SSW等と連携し組織的に対応していく。 ・SCと連携しながら「SOSの出し方に関する教育」を全学年で行い、子どもの相談窓口を広げていく。 |
| 7 【特色ある教育活動】 伝統的な「地域の学校」を継承し、地域に開かれた教育活動を推進する。 | コミュニティ・スクール運営の中で、子どもの学びと安心安全を支える地域の教育力を十分に活用し、子どもがすすんで地域に関わり、地域を愛する心をもつことができる。 | ・全学年で、地域人材、施設を活用した教科等横断的な学習に取り組み、人とかかわりや感動を大切にしたい体験活動を充実させ、子どもの学ぶ意欲を高める。 ・地域学校協働本部を中心とし、ゲストティーチャー、学習補助、安全見守り、図書、環境美化などの人材バンク一覧を作成し、次年度につなげていく。 |

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

| A 重点 | C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか) | 具体的な方策 | 具体的な取組 | | 成果 | | 自己評価 | | | | 学校関係者による評価 | | |
|--------------------|--|--|--------|--------------------|----|-----------------------|------|----|----------|-----|------------|------|----|
| | | | 評語 | 取組に関する指標(可能な限り数値で) | 評語 | 成果指標(可能な限り数値で) | 取組指標 | | 考察(コメント) | 改善策 | 評語 | 主な意見 | |
| | | | | | | | 中間 | 年間 | | | | | 中間 |
| 1 知 力(確かな学力) | 学習への達成感を味わわせ、学ぶ意欲を高める。 | 授業でICTを効果的に活用すると同時に朝学習や家庭学習でAIドリルを継続して活用する。 | A | 十分にできた。 | A | 児童「授業が分かる」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「授業が分かる」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「授業が分かる」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童「授業が分かる」70%未満 | | | | | | | |
| | 自ら課題を探究していく力や他者との対話の中で学びを深めていく力を育成する。 | 国語を主とした個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る授業実践を行う。 | A | 十分にできた。 | A | 児童「自分の考えを伝え合う学び」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「自分の考えを伝え合う学び」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「自分の考えを伝え合う学び」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童「自分の考えを伝え合う学び」70%未満 | | | | | | | |
| 2 徳(豊かな人間性) | 相手意識・思いやりを育む。 | 「あいさつ・返事・後始末」を重点とした生活指導及びいじめ防止に向けた組織的な取組を徹底する。 | A | 十分にできた。 | A | 児童「挨拶、相手への思いやり」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「挨拶、相手への思いやり」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「挨拶、相手への思いやり」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童「挨拶、相手への思いやり」70%未満 | | | | | | | |
| | 子ども自身が自分のよさに気づき、自己肯定感を高める。 | 「生命尊重」「個性伸長」を重点にした道徳授業の充実させる。 | A | 十分にできた。 | A | 児童「自分のよさへの気づき」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「自分のよさへの気づき」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「自分のよさへの気づき」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童「自分のよさへの気づき」70%未満 | | | | | | | |
| 3 体(健康・体力) | 運動に対する意欲を高め、運動に日常化を図り、1日60分以上の運動を行う。 | 子どもの主体性を生かした体育授業の改善及び体力向上プログラムに即した体育的活動を充実させる。 | A | 十分にできた。 | A | 児童「すすんで運動に取り組む」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「すすんで運動に取り組む」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「すすんで運動に取り組む」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童「すすんで運動に取り組む」70%未満 | | | | | | | |
| | 子どもたちのレジリエンスを高め、「折れない心・負けない心」を育てる。 | 全校で、レジリエンスを高める子どもへの言葉掛け、学級活動、保健指導、校内掲示に取り組む。 | A | 十分にできた。 | A | 児童「レジリエンス力」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「レジリエンス力」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「レジリエンス力」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童「レジリエンス力」70%未満 | | | | | | | |
| 4 働き方 | 教職員が働きがいのある職場を実感でき、時間外労働時間を45分以内を目指す。 | 一部教科担任制、エデュケーションアシスタント、SSS等の活用など効果的な業務改善を行う。 | A | 十分にできた。 | A | 月時間外45時間以内の教員90% | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 月時間外45時間以内の教員80% | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 月時間外45時間以内の教員70% | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 月時間外45時間超の教員70%未満 | | | | | | | |
| 5 保幼小中連携 | カリキュラム連携のテーマ「子どもの心と体の育成」をもとに保幼小中の連携を効果的に進める。 | 12月に本校の授業公開及び講演会を実施する。また、オープンキャンパス、保幼との交流会等を行う。 | A | 十分にできた。 | A | 児童・保護者「連携教育のよさ」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童・保護者「連携教育のよさ」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童・保護者「連携教育のよさ」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童・保護者「連携教育のよさ」70%未満 | | | | | | | |
| 6 安心・安全 | 一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育や教育相談体制を整える。 | 校内スタッフ及び関係機関と連携し、困り感のある児童への適切な支援を行う。また、全校でのSOSの出し方に関する教育に取り組む。 | A | 十分にできた。 | A | 児童「困ったとき相談できる」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「困ったとき相談できる」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「困ったとき相談できる」70%以上 | | | | | | | |
| | | | D | 不十分だった。 | D | 児童「困ったとき相談できる」70%未満 | | | | | | | |
| 7 特色ある教育 | 人と関わり合いや感動を大切にしたい体験活動を充実させ、子どもたちの学ぶ意欲を高める。 | 地域・外部人材を活用し、各学年、各教科等に関連した体験活動を充実させる。(年間50回以上を目標) | A | 十分にできた。 | A | 児童「地域への関心、体験のよさ」90%以上 | | | | | | | |
| | | | B | ほぼ十分にできた。 | B | 児童「地域への関心、体験のよさ」80%以上 | | | | | | | |
| | | | C | やや不十分だった。 | C | 児童「地域への関心、体験のよさ」70%以上 | | | | | | | |

